



やりがいのある事業が、
仕事の質も高める。

WASHハウス 株式会社
代表取締役 児玉 康孝氏

今回のトップインタビューは、宮崎市に本社を置くWASHハウス株式会社の社長・児玉康孝氏にご登場いただきます。同社は2001年に不動産関係をメインに起業し、その約半年後にはコインランドリー事業を2店舗から開始、衛生管理とメンテナンス、セキュリティを重視した営業スタイルで業績を伸ばし、現在、県内を含め九州6県に74店舗を展開しています。「地域に必要とされる店舗づくり」を目指すという児玉社長に、社の取り組みや、経営観を語っていただきました。

不動産業から得た新事業へのヒント

2001年(平成13年)の11月に会社を立ち上げ、翌年6月までは不動産関係をメインとして行っていました。それ以前に勤めていた不動産会社でさまざまな仕事をやっていたのですが、大きな組織の中ではできない事もあって、それでは自分で会社をやってみようということになりました。1年目は赤字覚悟でいろいろと勉強しました。実際、不動産業として会社を立ち上げたものの、免許を取得して動き始めたのは翌年の2月。そんな中、6月末の時点でコインランドリー業が面白いかなと思い始めたのです。きっかけはお客様にコインランドリー開設のための土地を世話したことからです。調べていくと、コインランドリーにははっきりとしたルールや規制等がなく、多くの方が「暗い」、「夜行くと怖い」というイメージを持っていることに気づいたのです。そこで当時4名いた営業社員に不動産は止め、コインランドリーについて徹底的に調べるように指示しました。翌年(2002年)12月には宮崎市城ヶ崎と大島通線沿いに1、2号店を同時にオープン。同じ沿線に店舗を置くことで、そこを通る人々に店がたくさんあるようなイメージを持たせるためでした。始めて5年になります。1年間に10数店舗をオープンさせ、現在では宮崎・福岡・

佐賀・熊本・大分・鹿児島に全74店舗を設置しています。この事業の面白いところは、作ったものが明確に残るところですね。



九州管内に74店舗。今後も県外進出を含め店舗数は拡大

丁寧なマーケティングと原点回帰

私たちの店舗づくりは地道だと思います。店舗数が増えたからといって、その地域の利用客数は限定されています。だからこそマーケティング等を丁寧に行っていくことが大事です。昨年から「原点回帰」という気持ちで、一店舗一店舗きっちりメンテナンスをすることを重視しています。会社として成長していくなか、お取引引きささせていただき方も増えており、なにかと店舗を作る、増やすことに目がいきがちですが、お客様に店舗を利用していただけることを大切にしていきたい。そのため、我が社では店舗管理部を核に据え、品質管理に重点を置いています。

この業界はもともと大きい会社をやっていたわけではありません。洗濯機やボイラー等は大企業のものですが、その機械を購入する人々は家族経営スタイルのコインランドリーがほとんどです。掃除も自分たちのみで行っていることが多く、衛生基準の指導も教育もするところありません。乾燥機は100円入れて10分・70℃で稼動するものと、20分・50℃で稼動するものとは効率が変わります。そういった本来表示すべき事も表示されていません。車でいえば性能に合わせて入れるレギュラーとハイオクの表示がないのと同じです。稼動する時間さえ延ばせばいいと思われがちですが、それ以前に衛生基準などをきちんと設けることが必要です。そこで我が社の企業理念でもある、業界の新基準(デファクトスタンダード)を自分たちで作っていかうと考えたのです。



わかりやすく使いやすい操作表示もオリジナル開発されたもの



洗濯方法や注意点など、店内いたるところにパネルが掲示されている

コインランドリー従来のスタイルを改革

住宅事情の変化から、ますます需要拡大の分野に

すから、少なくとも1ヶ月に1回は洗うべきでしょう。それでコインランドリーの機械も大きくなってきているのです。アレルギーの原因と言われているハウスダストの中身は何かというと、ほとんどがダニの糞や死骸です。現在、住居の密閉性が高いため、こういったものが外に出て行かない構造になっています。戦後よりもダニが多いと言われている現状です。

住宅事情の変化によりコインランドリーの利用率はますます高まっています。不動産や携帯電話等の市場が人口の減少により縮小傾向にあるなか、私自身も不動産業からスタートはしたものの、その先を見据えて商売をしたかったので、今後拡大する市場であろうコインランドリー事業に特化しました。今後については熱効率を上げる研究の依頼など、ニーズやクレーム、データをメーカーに提示し改善していくことで、儲かっている会社にならなくていいから利用者・地域に必要とされる会社になりたいと思っています。必要とされれば潰れませんから。

実は、一昨年の台風14号被害のとき、当社も2店舗が浸水したのですが、宮崎市中が断水したなか、給水車でバックヤードに水を運び100円で稼働できるようにしました。本当は無料にしたかったのですが、コイン投入がスイッチとなっていますのでできませんでした。これには地元の方々にも喜んでもらってお礼状までいただきましたが、改めて自分の会社の価値を確かめた時でもありました。同時に「やりがいのある仕事だ」と確認できました。単に売上を上げるだけより、やっていることに意義を感じると仕事の質も上がりますね。

清潔感あふれる店内はライブカメラで監視。
セキュリティにも配慮

徹底したメンテナンスとセキュリティ体制

WASHハウス 株式会社 代表取締役・児玉 康孝氏

1965年宮崎市生まれ。国士舘大学法学部法律学科卒業後、東京の証券会社に入社。その後、大手ファーストフード店を経て、30歳で宮崎に帰郷。地元の手不動産会社に勤務したのち、2001年に株式会社ケーディーエムを設立。2005年に社名をWASHハウス株式会社と変更。現在に至る。